

# 沖縄県の入域外国人観光客の動向

2012年の年末頃から継続している円安の影響に伴い、訪日外国人旅行者が全国的に増加している。沖縄でも2013年の外国客は、55万800人で、前年比で17万4,100人増、46.2%の増と、過去最高を記録している。沖縄においては、既存路線の増便、台湾や韓国路線における既存路線への参入、チャーター便増加など沖縄発着路線が拡充したことが、外国客の大きな要因となっているようだ。

## 県内の外国人旅行者は95%がアジア

「出入国管理統計年報」の数値によると沖縄県内の外国人旅行者は、95.2%がアジアからの訪問となっている（図表1）。全国でもアジアは、78.3%と最も大きい割合を占めている。

また、アジア地域だけで、国別にみると、2013年では台湾が24万人（前年比10万人増）、香港8万人（前年比2万人増）、韓国8万人（前年比4万人増）となっている（図表2）。

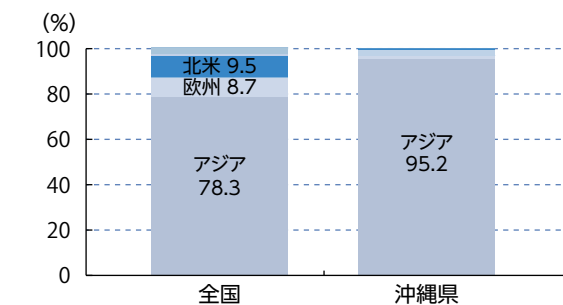
全国的にみても、台湾、香港、韓国からの旅行者は特に増加傾向にあるようだ（図表3）。

県内において、台湾については、特に尖閣関連の影響もみられず、2011年のオープンスカイ協定締結による新規航空路線の就航、2013年は、台北－那覇、台北－石垣路線の拡充などもあり、空路を中心に増加しているようだ。

韓国についても、2013年は、ソウル－那覇路線の拡充、釜山－那覇路線の定期便の就航などにより増加している。沖縄でのドラマ撮影、プロ野球の沖縄キャンプ等により沖縄の知名度が向上しており、観光客数が増加傾向にあるようだ。

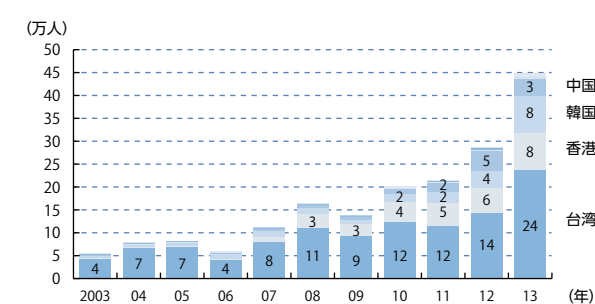
中国については、2011年の数次ビザ発行（7月）以降、北京からの海南航空、中国国際航空の新規就航を加え、夏の大型クルーズ船の寄港により増加したものの、尖閣関連の影響も大きく、2013年は落ち込みをみせた。一方で、香港は、尖閣関連の影響がみられた時期もあったものの、その回復が早く、全国同様に好調な推移をみせている。

図表1：2013年 訪日外国人旅行者国別割合（全国・沖縄県）



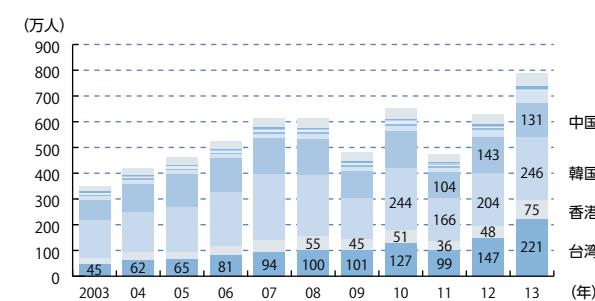
（出所）日本政府観光局（JNTO）、沖縄県観光政策課

図表2：沖縄県の訪日外国人旅行者数（アジア・国別）



（出所）沖縄県観光政策課

図表3：全国の訪日外国人旅行者数（アジア・国別）



（出所）日本政府観光局（JNTO）

## 【KRIアウトLOOK：沖縄県の入域外国人観光客の動向】

### 2013年の外国人客の観光収入は前年比78.7%増

2013年度の「観光統計実態調査」（沖縄県文化観光スポーツ部）によると、2013年の観光客全体の消費単価は67,659円（前年比1.1%増）、観光収入は4339.5億円（前年比11.1%増）となっている。

国際航空搭乗客の消費単価は2011年の80,022円から2013年には92,976円に増加しており、同様に、国際船舶搭乗客の消費単価も2011年の20,212円から2013年には26,238円と増加している。一方で、県外客の消費単価は、7万円弱で伸び悩んでいる状況にある（図表4）。

県内の観光収入は、県外客と外国人客の消費単価と観光客数の加重平均で算出されるが、国際航空搭乗客による観光収入は、2011年の130.92億円から2013年の350.89億円と2倍以上の金額に増加している。また、国際船舶搭乗客による観光収入も2011年の23.53億円から2013年の46.22億円となっており、こちらも約2倍の増加となっている（図表5）。

外国人客の観光収入だけを見ると、国際航空搭乗客+国際船舶搭乗客で、2013年は397.11億円、対前年比で78.7%、金額にして174.95億円の増となっている。

一方で、県外客の観光収入は、2013年は3,942.33億円、対前年比で7.0%、金額にして258.96億円の増となっている。県外客による観光収入も伸びているもののやはり消費単価の低迷から客数の増加と比較して観光収入の増加が少ない。

特に国際船舶搭乗客は、消費単価の伸びが大きい。海路からの入域は、台湾が多くを占めており、他国に比べてリピーターの割合も比較的高いといわれている。また、ドラッグストアの訪問率も高いようだ。

外国人観光客は、那覇市内をはじめ石垣島でも買物をしているようで、ショッピングセンターやドラッグストアなど、特にアジア客向けの買物環境は整っているようだ。

2014年10月には、輸出品販売場制度（免税店制度）が変更される。これにより、食品、飲料、薬品、化粧品などが新たに免税対象に加わることになる。報道によると、それに伴い県内百貨店やショッピングセンターも、消費税免税分の払い戻しが受けられる専用カウンターの設置や、ホテルや観光協会が配付しているパンフレットに割引クーポンをつけるなど、外国人客向けのサービ

ス強化を進めている。

また、売場のレイアウトを変更し、より外国人客がアジア客の利用が多いドラッグストアに隣接する売場に、化粧品やそのた土産品など、外国人に人気の商品を集約するなどにより、売上を伸ばしているようだ。

沖縄を訪れる外国人観光客が急増する中、県内の外国人観光客の買物環境は、さらに整備されるであろう。今後、県内でも外国人客の需要に応じた売場の変更が進んでいくとみられ、小売業界にとって外国人客の増加は、大きなインパクトとなっているようだ。

（地域経済調査部主任研究員／新里治史）

図表4：沖縄県の観光客消費単価

年	県外客消費単価 (円)	対前年比 (%)	国際航空搭乗客消費単価 (円)	対前年比 (%)	国際船舶搭乗客消費単価 (円)	対前年比 (%)	観光客全体消費単価 (円)	対前年比 (%)
2011年	69,715	-	80,022	-	20,212	-	68,962	▲0.8
2012年	67,472	▲3.2	83,814	4.7	20,075	▲0.7	66,924	▲3.0
2013年	67,242	▲0.3	92,976	10.9	26,657	32.8	67,659	1.1
2011年度	69,171	-	78,533	-	20,169	-	68,427	▲3.0
2012年度	38,008	▲45.1	83,336	6.1	20,001	▲0.8	67,459	▲1.4
2013年度	67,323	77.1	96,548	15.9	26,238	31.2	68,062	0.9

（出所）沖縄県文化観光スポーツ部「2013年度観光統計実態調査」

図表5：沖縄県の観光収入

年	県外客消費額 (百万円)	対前年比 (%)	国際航空搭乗客消費額 (百万円)	対前年比 (%)	国際船舶搭乗客消費額 (百万円)	対前年比 (%)	観光収入 (百万円)	対前年比 (%)
2011年	358,019	-	13,092	-	2,353	-	373,464	▲8.2
2012年	368,337	2.9	19,269	47.2	2,947	25.2	390,555	4.6
2013年	394,233	7.0	35,089	82.1	4,622	56.8	433,945	11.1
2011年度	361,532	-	14,332	-	2,398	-	378,264	▲6.0
2012年度	376,916	4.3	19,876	38.7	2,880	20.1	399,674	5.7
2013年度	400,781	6.3	42,066	111.6	5,025	74.5	447,868	12.1

（出所）沖縄県文化観光スポーツ部「2013年度観光統計実態調査」

図表6：沖縄県の入域観光客数

年	県外客数 (人)	対前年比 (%)	外国人客数 (人)	対前年比 (%)	うち国際航空搭乗客数 (人)	対前年比 (%)	うち国際船舶搭乗客数 (人)	対前年比 (%)	入域観光客数 (人)	対前年比 (%)
2011年	5,135,500	-	280,000	-	163,600	-	116,400	-	5,415,500	▲7.5
2012年	5,459,100	6.3	376,000	34.3	229,900	40.5	146,800	26.1	5,835,800	7.8
2013年	5,862,900	7.4	550,800	46.5	377,400	64.2	173,400	18.1	6,413,700	9.9
2011年度	5,226,600	-	301,400	-	182,500	-	118,900	-	5,528,000	▲3.1
2012年度	5,542,200	6.0	382,500	26.9	238,500	30.7	144,000	21.1	5,924,700	7.2
2013年度	5,953,100	7.4	627,200	64.0	435,700	82.7	191,500	33.0	6,580,300	11.1

（出所）沖縄県文化観光スポーツ部「2013年度観光統計実態調査」